

バスケットボールフリーペーパー  
ハッスルボードVOLUME  
0052024年11月20日発行  
(株)オンザコート  
<http://www.onthecourt.jp/>

TAKE FREE

# Hustle Board

BASKETBALL INFORMATION  
DELIVERED BY ON THE COURT

読者プレゼント



大樹生命 Wリーグ 2024-25シーズン

「WE RISE」新レギュレーション スタート!

りそなグループ B.LEAGUE

「B.革新」2026-27シーズン

B.LEAGUE PREMIER参入クラブ情報

Special Feature

間宮 誠(京都ハンナリーズ アシスタントコーチ) インタビュー

大村 将基(三遠ネオフェニックス スキルディベロップメントコーチ)

&amp;

山下 恵次(名古屋ダイヤモンドドルフィンズ プレーヤーデベロップメントコーチ)

対談

チーム探訪

日本航空高等学校 北海道  
広島県瀬戸内高等学校

Nissy's TRAVELING Talk

[TOPIX]

北海道学連「新人インカレ 奮戦記」

OTCくきや通信

BALLER'S 福岡店リニューアルオープン  
プレゼント

## WINTER, THE CURTAIN RISES ON CHALLENGES

2024  
November  
11



## 大樹生命 Wリーグ 2024-25シーズン

WE  
RISE

## 新レギュレーションスタート！

今シーズンより、大樹生命保険株式会社をタイトルパートナーに迎え、新たなスタートを切ったWリーグ。昨シーズンの上位8チームが『Wリーグプレミア(Wプレミア)』、下位6チームが『Wリーグフューチャー(Wフューチャー)』という2ディビジョン制に移行し、各地で熱戦が繰り広げられている。Wプレミアではリーグ制覇を、Wフューチャーでは昇格をめざすチャレンジが始まった。(写真提供:Wリーグ)

皆人 公平一文  
text by Kohei Minato

## 新レギュレーション+活発な移籍

新しいレギュレーションは、Wプレミア8チームによる4回戦総当たりのレギュラーシーズンを経て、上位4チームが覇権を争うプレーオフへと進む。プレーオフ・セミファイナルは2戦先勝方式、プレーオフ・ファイナルは3戦先勝方式となり、そう簡単に頂点へたどりつくことはできない。Wフューチャーは5回戦総当たりのレギュラーシーズンを戦うが、そこで1位になるとWプレミアへの自動昇格(Wプレミア最下位は自動降格)が決まり、2位に入るとWプレミア7位のチームと2戦先勝方式の入替戦に出場できる。

ファンとしても応援に力が入るというもの。推しのチームや選手をサポートするためにも、ぜひ試合会場へ駆けつけてほしい。

また、今シーズンは移籍市場が活発だったこともあり、主力を担う選手が新しいユラオームでコートに立つシーンも増えている。新たな環境を求めた選手たちは、きつと心に期するものがあるはずだ。既存の選手と新加入の選手が互いの力を引き出し合い、チームにとって大きなプラスをもたらすだろう。ロスターを入れ替えて臨むチームや、選手一人ひとりがチャレンジする姿を観てほしい。それはWリーグひいては日本の女子バスケットにとっても新たな挑戦に他ならない。

ビッグルーキー、トヨタ紡織#6ディマロジェシカワリエビモエレ



W LEAGUE







山梨QBを引っ張る新キャプテン#23井上桃子



オールドルーキー、トヨタ自動車#25桂 葵



シャンソンの新キャプテン#45佐藤由璃果



姫路のエース#21御子柴百香



トヨタ自動車から移籍の富士通#81宮下希保



ENEOSからアイシンへ移籍した#1渡嘉敷来夢

## ■順位表(11月17日現在)

### Wフューチャー

1位	東京羽田ヴィッキーズ	10勝2敗
2位	三菱電機 コアラーズ	9勝3敗
3位	新潟アルビレックス BBラビッツ	7勝5敗
4位	プレステージ・ インターナショナル アランマーレ	6勝6敗
5位	山梨クィーンビーズ	4勝8敗
6位	姫路イーグレッツ	0勝12敗

### Wプレミア

1位	富士通レッドウェーブ	11勝1敗
2位	デンソー アイリス	9勝3敗
3位	ENEOSサンフラワーズ	9勝3敗
4位	アイシン ウィングス	5勝7敗
5位	トヨタ紡織 サンシャインラビッツ	5勝7敗
6位	トヨタ自動車アンテロープス	4勝8敗
7位	シャンソン化粧品 シャンソンVマジック	4勝8敗
8位	日立ハイテク クーガーズ	1勝11敗



日立ハイテク#31窪田真優は飛躍の2季目

※2チーム以上が同勝率の場合、①当該チーム間の勝率、②当該チーム間の総得点差、③全試合の総得点差によって順位を決定

# B.LEAGUE



新港第二突堤エリア(愛称: TOTTEI)イメージ

## ■B. PREMIERライセンス交付(2024年10月17日現在)

### 1次審査

宇都宮ブレイクス/千葉ジェッツ/アルパルク東京/川崎ブレイベサンダース/琉球ゴールデンキングス

### 2次審査

レバンガ北海道/仙台89ERS/群馬クレインサンダース/アルティエリ千葉/サンロッカーズ渋谷/横浜ビー・コルセアーズ/信州ブレイベウォリアーズ/三遠ネオフェニックス/名古屋ダイヤモンドドルフィンズ/島根スサノオマジック/広島ドラゴンフライズ/佐賀バルーンズ

### 3次審査

富山グラウジーズ/シーホース三河/滋賀レイクス/神戸ストークス/長崎ヴェルカ



©KOBE STORKS

## B.革新

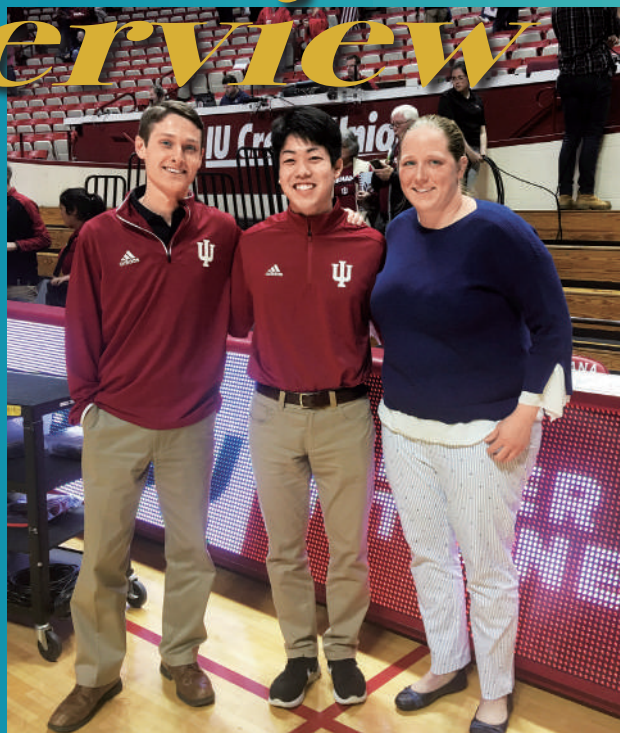
## 2026-27シーズン B.LEAGUE PREMIER 参入クラブ情報

現在B2に所属する神戸ストークスが、2026-27シーズンより開幕する「B.LEAGUE PREMIER」に参入することが正式決定。Bプレミアは、「アリーナ」「売上」「入場者数」の3要件を満たさなければならず、神戸は昨シーズン後半に「9万人来場プロジェクト」を実施し、クラブ史上最多の6,454名を記録するなど、売上と入場者数をクリア。アリーナについては、神戸ウォーターフロントの新エリア、TOTTEI(トッテイ)に建築中の最大1万人規模収容の『GLION ARENA KOBE(ジーライオンアリーナ神戸)』をホームアリーナにすることで要件を満たした。このジーライオンアリーナ神戸では、開業予定の2025年4月にホームゲーム4試合の開催も予定している。

今のところ、「B.PREMIERライセンス」が交付されたのは22クラブ(1~3次審査)。他に秋田ノーザンハピネッツ、茨城ロボッツ、京都ハンナリーズ、大阪エヴェッサが4次審査での参入をめざしている。B.LEAGUEは「B.革新」を掲げ、世界に向けたチャレンジを加速させていく。



# Interview



## 選手からマネージャー、そしてプロコーチへ。 自ら切り拓いた道のり

Bリーグのベンチには、指揮を執るヘッドコーチ以外に、アシスタントコーチやマネージャーなどたくさんのスタッフがいる。その一人、京都ハンナリーズの間宮 誠さんにこれまでの歩みと若い人たちへのアドバイスを聞いた。

京都ハンナリーズ 間宮 誠アシスタントコーチ/チーフスタッフ

選手に限らないバスケの楽しさを発見！

母親が持ち帰ったミニバスのチラシを見て、興味を持ったバスケットボール。最初は楽しくなかったが、名門校で続けることに。

「背が低くてシュートは届かないし、ドリブルも上手くない……最初はあまり楽しくなくて。でも、コーチの指導が良かったし、みんなと一緒にやっていくうちに上達し、楽しくなってきた。そんな上手いわけではなかったですが、中学、高校でもバスケットを続けた。ミニバスの先輩が京北高校に進学し、『京北のバスケット、すごいよ、強いよ』と聞いて興味を持ち、京北へ進学しました」

そこは「見たことない世界」。レベルの差を感じたが、すぐに気持ちを切り替えた。前向きな気持ちを持ち続け、自分の新しい世界が広がっていく。

「割り切って頑張ろう」という気持ちになりました。誰かを追い越して、自分が試合に出るぞ！というより、まずはこの環境でできることをしっかりとやろうという心境。一つ上に選手兼マネージャーの先輩がいて、よく手伝いをしていたんです。その方が体調を崩して退部することになり、中学2年からマネージャーになりました。裏方というか、そういう役割に面白さを感じるきっかけになったと思います」

スタッフとしてチームを支える道があるという新しい発見があり、視野が広がった。明治大学進学後、学生コーチを務めた。

「当時のヘッドコーチ、塚本清彦さんがよく京北の練習にいられていて、高校1年から声を掛けていただきました。マネージャーの仕事ぶりを評価していただき、学生コーチとして一緒にやろうとお誘いを受けることに。コーチングに触れたのは大学からで、本当に良い経験になりました。実は、大学入学時から『プロのコーチになりたい』、そう思っていたんです。それ以前は、プロのマネージャーに、と思っていたんですけど(笑)」

学生コーチの経験はとて大きくて、『プロのコーチになりたい』といっても、どういう形になるかわからない。イメージすら持てませんでした。目標が明確になりました」

自分で探して挑戦することが大事

ただ、一足飛びにはなれるものではない。「最終的にはヘッドコーチに」というのが着地点。着実なステップを踏むため、早稲田大学大学院へ進学。倉石平氏の下でコーチングを学んだ。

「大学卒業時、Bリーグのチームから、スタッフの一員としてオファーをいただきました。が、もっと勉強し、知識を増やしてから現場へ出るべきだと考えました。選手のキャリアはほとんどなく、何か差別化できるものがなければいけない。『人一倍コーチングを学ばなければ』と考え、バスケットを学べる場所として、最初に思い浮かんだのが倉石さん。そこで、早稲田大学院に決めました」

倉石ゼミで学びながら、留学への思いを具体

「高校生の頃から留学を考えていて、タイミングやプロセスなど、周りの方々に相談してました。『日本人が多い西海岸ではなく、東海岸、それもバスケットが盛んな地域が良い』というのでインディアナ州へ。ただ、NCAAはレベルが高く、『このコーチに学びたい』といっても簡単には入れません。そこはあまり深く考えず、まずは英語の勉強から始め、さらにバスケットも学べる環境を求めることにしました。ジュン安永さん(琉球ゴールデンキングスGM)がインディアナ大に留学していて、『とても良い環境だよ』とお聞きしました。その通り、すごく良い環境で、望んでいた学びができたと思います」

留学中に取り組んだのは英語のスキルアップ。その先にバスケットがあり、常に心がけたのは、『現場で体得することだった』。

「その頃、自分にできるのはスカウティングの資料づくり。ビデオクリップやプレーブックの制作です。プレーン資料を携えて、インディアナ大のバスケットボールオフィスに持参しました。当初は男子部に関わりたかったもの、かなり狭き門。まだ英語も十分ではなく、『どうしよう?』と悩ん



text by K.Minato  
photo courtesy of M.Mamiya

化していく。周囲の関係者からアドバイスを受けつつ、自分で資料を当たり、複数の大学にアクセス。その結果、選んだのがインディアナ大学。修士課程の1年目を終えたところで休学し、一年間の留学へ旅立った。



MAKOTO MAMIYA  
間宮 誠

1995年1月25日、東京都出身。京北中学・高校から明治大学へ。大学卒業後、早稲田大学大学院でバスケットボールのコーチングを学び、1年間インディアナ大学に留学。現在、京都ハンナリーズアシスタントコーチ/チーフスタッフ、3x3日本代表サポートコーチ、U23ヘッドコーチ。

2018-19 インディアナ大学女子バスケットボールチーム  
学生ビデオコーディネーター  
2019- 3x3日本代表 テクニカルアシスタント/  
サポートコーチ

2020-21 三遠ネオフェニックス アシスタントコーチ兼通訳  
2021-22 三遠ネオフェニックス アシスタントコーチ  
2022- 京都ハンナリーズ アシスタントコーチ  
2024- 3x3 U23日本代表ヘッドコーチ

でいた時、同じ資料を提出していた女子部の関係者が快く面接をしてくださり、「ぜひ、スタッフ（ビデオコーディネーター）に」と、誘ってくださったんです。資料のクオリティ、分析力が評価されたと思います」

そのスキルは学生時代、三菱電機ダイヤモンドフィズ（現名古屋D）でのインターン経験が役立った。使用するソフトは市販のもので、どう使いこなすかで差が出る。クオリティの高い資料に仕上げるスキルも現場で身に付けたものだ。

「定番の分析ソフトですが、使いこなせるかどうかが大事になります。インディアナ大では自分が作成した分析資料を基に、ヘッドコーチやスタッフはミーティングを重ねます。すぐに高いレベルのミーティングに参加できたわけではありませんが、自分のスキルが上がる感覚はありました。それは、今の仕事に活かされています」

## きつかけを逃さず、チャンスをつかむ

充実した留学を経て、早稲田大学大学院に復学。修了後は、「3x3日本代表テクニカルアシスタント」という肩書、分析系のスタッフに就いた。

「いくつか選択肢があり、アメリカに戻ることやBリーグのチームに入ることも考えながら、3x3日本代表に携わることができました。いろいろ考えた末、『経験を積んでからBリーグへ』という、自分なりの形を思い描いていたんです。Bリーグに関しては、最初に三遠ネオフェニックスから『アシスタントコーチ兼通訳で』という



オファーをいただきました。将来につながる大事な一步、大きなチャレンジです。さらにコーチングの実務を学び、この道をまっとうしなれば、そういう思いになりました。

ビデオコーディネーターは、資料を作成してヘッドコーチやスタッフへ渡せば役目は終了します。アシスタントコーチはスカウティングもやれば、資料を基に、『これはこうだよ』って、実際に選手を動かすこともある。

個人的な考えですが、アシスタントコーチはステップアップを果たすために、さまざまな経験ができるポジション。これまで2人の外国人ヘッドコーチ（三遠：ブラニスラフ・ヴィチエンティッチHC、京都：ロイ・ラナHC）の下、多くのことを学びました」

アシスタントコーチとして注意を払うのはヘッドコーチとの対話。共通認識を持つて動かなければ、チーム・選手が混乱してしまつ。まずはヘッドコーチの考えに基づいて動くこと。もし疑問があれば、2人だけでコミュニケーションを取り、解決してからチーム・選手に伝えていく。

「留学を含め、学生時代の学びや経験をベースに蓄えた知識があっても、すぐにオファーがあるとは限りません。キャリアアップには実務での経験、継続した学びが重要です。」

これまでのキャリアについて補足すると、アメリカに興味を持ち始めたのは、（株）オンザコート『OTCツアー』がきっかけのひとつ。大学3年の時、『ゆくゆくはプロのコーチに』と、考えていた頃で、初めて本場のバスケットをライブ観戦。本当に楽しかったし、ハマっちゃいました（笑）」

## ステップアップは日々の努力あるのみ

現在B1京都のアシスタントコーチを務めるが、若い世代が同じ道を歩み始めている。どんな新しい人材が育つ中、今のポジションをキープ、あるいはステップアップしていくために日々アップデイトは欠かせない。その努力がまた、モチベーションを高める。

「今の若い世代は、自分が学生だった頃よりいろんなことを知っていたり、経験できたりします。現状維持だと数年後、今のポジションから外れてしまうかもしれない。アップデイトだけでなく、挑戦する気持ちが大事ではないでしょうか。時には『苦手だな』『やりづらいな』と、知らず知らず遠ざけてしまうことはないか、ふり返ることも大事。困難に思っても立ち向かい、乗り越えていかなければなりません。さらに上のポジションに行くためにも、たとえ苦しい分野であっても逃げずに挑戦するよう心がけています」

アップデイトの方法はさまざまだが、現状維持はNG。自ら動き、新しい知識に触れること……進化し続けるのは難しく、また楽しいことでもある。

「最近よくやっているのは、オフシーズンに海外や国内のコーチたちと意見交換すること。『こういう時はどう守るの？』『どんな練習をすればいい？』って、ざつとばらんに話をします。スカウティングの際も、他のチームが上手くやっているケースをきちんと観察し、自分たちだけが正解だと思わないこと。周りから得る知識を吸収しながら、貪欲に学ぶこと。これを忘れてはいけません」

## 自分が打ち込めることを見つける

子どもの頃、上達することでバスケットが楽しくなった。中学で縁の下での力持ち、マネージャーの重要性に気づく。学生コーチや留学でベンチスタッフの醍醐味を味わい、いざプロコーチへ……『ビデオコーディネーター』や『コーチになりた』という子どもたちとも触れ合う機会が増えている。

「Bリーグが大きく成長し、注目度が上がりました。選手だけでなく、マネージャーやビデオコーディネーター、トレーナーなど、ベンチスタッフの需要も増えているでしょう。若いうちから、部活のチームあるいはクラブチームでスタッフの一員として、さまざまな関わりが持てるようになってきました。バスケットのかかわりは、プレーが続けられなくなったら終わり、ではありません。引退してからもいいですが、若いうちから専門性に特化した分野で頑張る」というチャレンジに目を向けてもいいと思います。さまざまな環境で、さまざまな仕事や役割に触れれば、面白いと感じることに出会えるはずですよ」

京都ハンナリーズの試合を観れば、ベンチスタッフの仕事ぶりがわかる。プレーはもちろん、チームを支えるスタッフが動き回るベンチを観る、という楽しみ方もありそう。

「そうですね、今はアシスタントコーチとチーフスタッフを兼任しています。スタッフ全体のまとめ役であり、通訳もこなしています。ヘッドコーチが熱くなり過ぎたら、レフェリーとの間に割って入ってコミュニケーションを取ることも……タイムアウトでは直接、選手に指示するケースもありますから、『どんなアクションをしているのかな』って観ていただく面白いかもしれません。『コーチって、こんな感じでやるんだ』というイメージを膨らませてもらえばいいですね。」

あとは、対戦相手のセットプレーをコートサイドから叫び、「次、こういうセットプレーで来るよ」って、味方の選手を鼓舞することもあります。少しでもチームの役に立てるよう、とにかく動き回っていますから、そういうところも観ていただけると嬉しいです」







## 選手の「上手になりたい」をサポート。 スキルとハートを磨き上げる

text & photo  
by K.Minato

チームの勝利に貢献できる、  
プロで活躍し続けられる選手に育てる

——チームでの役割を教えてください。

大村 「スキルディベロップメントコーチ」として、選手の能力を伸ばすのが仕事。個人の能力だけでなく、チームの戦術・戦略に合うよう、選手に落とし込んでいきます。今季は、チームのディフェンスについても担当しています。

山下 基本的には将基さんとあまり変わりません。まだ1年目なので、戦術・戦略にはあまり携わらず、選手個人へのアプローチがメインです。

——選手には、どういうアプローチをしていくのでしょうか。

大村 まずはコミュニケーション。若手はバスケットIQというか、ベースのところがまだプロのレベルに達していないケースが多い。「バスケットとは!?」「プロの戦い方は?」というのを教えながら、その中でもまだベースが低いところを上げていきます。そこから、ヘッドコーチ(HC)やチームが求めるもの、「このチームのスタイルはこうだよ」と、当てはめていく感じです。いかにチームに貢献できる選手に成長させるかが重要ですね。

山下 僕の場合、昨季は琉球ゴールデンキングスに在籍していました。桶谷 大HCが育成にも力を注いでいて、「U15、U18の選手もしっかり見てくれよ」と言われていたんです。沖縄の子たちはあまり背が高くない。でも、レイアップシュートを打つ時……これは桶さんとも話していましたが、「今の子どもたちはみんな2メートル級の選手と同じような動きをする。ハイライトシーンの見過ぎかな」と。単に身長差があるというだけでなく、プレーの質や認識の違いをしっかりと埋めなければいけない、そう感じています。

——そのギャップはプロの選手でも同じ?

大村 そうですね、大学時代は普通にレイアップシュートに行けたとしても、「プロではもう通用しないよ」と。そこからトレーニングが始まります。選手が早く気づくこともあれば、時間がかかることもある。そこは選手の特徴を考慮しながら、今の環境に合わせられるように指導していきます。

「特性」が一番大事で、「これ」というのはない。選手一人ひとり、教え方も教えるスキルも変わってきます。そこは、個人を尊重しつつ、さらにチームからの求めもありますから、簡単に決め

つけられません。選手と一緒に取り組んでいきます。

——気づいていないと感じる選手には、どういうアプローチをしますか。

山下 マンツーマンのワークアウトだけで気づかせるのは難しいと思います。僕がやるのは、HCに、「一度試合で使ってみてください」と進言すること。実戦の中で気づいてほしいので、桶さんにその選手の現状を伝えるとき、「じゃあ一度、試してみるか」となる。自分のプレーが通用するかどうか、シュートまで行けなかったり、パスが上手くさばけなかったりというのを体験すると、スキルコーチが伝えていた意図を理解しやすい。そういう経験ができるよう、選手のために環境を整えてあげることも大事だと思います。

大村 それと、アドバイスのタイミングですね。言うべきことがわかっていても、ミスが起こった瞬間に言うとか。何でもかんでも「こうやってああやって」と言っても本人にそのイメージがないと気づけない、経験してないからわからないんです。タイミングを見計らって言いますが、「まずは練習で見せてくれ」と。練習できても試合でできないから、「だから、こうなんだよ」と。選手もやる気が湧くし、成長速度が違ってきます。タイミングはすごく大事にしています。

コーチングのスキルを注ぎ込み  
選手一人ひとりと向き合う

——フリーの立場で教えるのと、チームスタッフとして関わる場合の違いは?

山下 今は名古屋Dに所属しています。ショーン・デニスHCはすごくコミュニケーションを大切にしているタイプです。個々の能力が上がったとしても、デニスHCのバスケットとかみ合わなかったら、何度もコミュニケーションを取ります。個人のスキルとチームのバランスをどう取るか、そういうアプローチを心がけています。

大村 もともととは、選手のスキルを上げてチー

ムへ送り込む役割でした。が、今はチームに必要な役割を担っています。三遠では大野篤史HCの下、ロスターを考



える段階から、「こういうメンバーでやっていきたい」という意図が明確なので、「この選手をどう当てはめていくか」を考えられています。移籍選手でも、ルーキーでも、加入1年目の選手には、「ウチはこういうスタイルで、こういう判断でプレーを求めるから、今までとは違うかもしれないよ」と。その中で、選手一人ひとりがベストパフォーマンスを発揮できるようにしていく。そこはチームありき、ですね。

——チームに合う選手を育てる、個人のポテンシャルを引き出す。どちらも醍醐味があり、どちらを選ぶか葛藤があるのでは?

大村 与えられた役割なら、どちらでもOKです。今は両方に関わられています。選手のスキルを鍛え、それをどうチームの力としてプラスにできるか、そういうマインドです。

山下 個人に対して、尊重すべきところは絶対あると思います。その上で、HCがめざすバスケットにどう適応させるのか。選手がそういうところでマインドセットを持てるよう、しっかりとコミュニケーションを取ります。

例えば「A」という選手がいたとすれば、どういうシーズンを送りたいのかを確認しながら、HCとも話し合い、シーズンを通してどういうスケジュールで、どこをめざしてトレーニングしていくのかを決めていく。現状プレータイムがなかったとしても、「今後に向けてどうアプローチしていくべきか」を、選手やチームと共有します。チームにはライバルがいるので、その選手たちと何が違うのか、どうして彼らがプレータイムをもらえるのかを理解させる必要もあります。



総合学園ヒューマンアカデミーバスケットボールカレッジの一期生(大村将基)、二期生(山下恵次)として出会った2人。それぞれの方法でプロ選手をめざしながら、「スキルコーチ」の肩書で再び人生が交錯する。2人に訊いた「スキルコーチとは?」を、2回に分けて紹介する。

三遠ネオフェニックス 大村将基スキルディベロップメントコーチ

名古屋ダイヤモンドドルフィンズ 山下恵次プレーヤーデベロップメントコーチ



1985年12月8日生まれ、佐賀県出身。bj大阪、ヒューマンアカデミーのコーチを経て、B1大阪、千葉J、2022-23シーズンから三遠のコーチに。その間、男子日本代表のスキルトレーナー等も務める。

SAN-EN  
NEOPHOENIX

SHOKI OHMURA  
大村 将基

NAGOYA DIAMOND  
DOLPHINS

KEIJI YAMASHITA

山下 恵次

1987年6月29日生まれ、大阪府出身。新潟経営大学卒業後、同大学AC。その後、HOS実業団スキルコーチ(AC)、ヘッドコーチ等を経て、B1大阪、琉球のスキルコーチに就任。今季より名古屋Dへ。



つまり、個人のスキルアップはもとより、「マインドセット」が本人にも、チームにも重要なことであり、両方に関わるのが大事だと思っています。

——メンタル面のサポートはかなり難しいと思います。どんなサポートをしていますか。

大村 コミュニケーションが大事

で、ケイジが言った通り、プレータイムがないのはどうしてだろう、と本人が理解しなければならぬ。「チームはこれを求めているから、まずはそれに対してトライしてみよう」「今、必要なのはこれだよ」と、対話を徹底します。現状は我慢するしかないにしても、それをモチベーションにすることが出来る。「チャンスは来るから」って伝え続けます。でも、チャンスをつかむのは僕らコーチではなく本人。ダメだったら、「やるしかないよね」と上手くいいたら、「ほら、やって良かったよね」という繰り返しです。コーチは辛抱強く付き合っていく。スキルアップにおいて、スペシャルな方法はありません。辛抱強く、言い方を変えたりしながら続けて、その選手の能力を引き出せるかどうか。少なくとも現状を維持して、一歩でも前進させていく、それが大事なことだと思います。

——担当した選手のスキルが上がったのにプレータイムが与えられないというケースでは、もどかしさを感じるとは思いますか?

山下 選手起用はHCが決めることで、選手の能力がどうこうだけではありません。その時々判断に委ねるしかなく、チームの意向をきちんと選手に伝えなければなりません。選手に理解を促して対応できるようにする、それがプレーヤーデベロップメントコーチの役目なんです。

スキル技術は、ほぼ正解?

メンタルサポートがより大切

——スキルコーチは個人のプレーを上達させるだけではない。スキルアップはもちろん、いかにチームにフィットし、勝利に貢献できる選手

になれるよう導いていく。選手と一緒に頑張ってサポートし続けるんですね。



大村 はい、選手はチームでの「役割」を理解することがとても重要です。基本的にはみんなシュートを打つんですけど、「どういうシュートを打つか」というのは、それぞれ役割によって変わります。レベルが

上がれば上がるほど、その役割を徹底していきます。それができればプロの世界では生きていけません。なんでもできる選手、ずっと生き残る選手は、日本代表クラスですから。

——以前は「何でもできる選手」だと評価されたとしても、カテゴリーが上がれば状況が変わると理解しなければならぬんですね。

大村 ギャップを感じるとは思います。でも、チーム内の役割はたくさんあって、それを本人がどう理解するか。自分でボールプッシュしてシュートを打ちたい、ピック&ロールを使って得点したいという選手もいるでしょう。最終的にそういう選手になれば、それはそれでいい。

でも、チームでの役割をまっとうしなければ「使いにくい選手」になってしまう可能性もある。そこは、僕たちコーチがかなり注視しています。(個人として)最終的な理想形はあったほうがいい。でも、それぞれの段階における自分の現状、「今の自分はこうだけど、次のステップではこうなりたい」と考えられるかどうかが重要なんです。成長プロセスにおいて、次のステップに行くために必要なことを理解しなければなりません。

B1はプレーの強度がものすごく上がり、思い通りにシュートが打てない、1対1で守れないということがあります。だからといって、そこから安易に次のプロセスへ移行しても絶対に上手いきません。「できる」と思っていたことが、すぐにできなくなったとしても徹底的にやるように伝えます。こういうことかと言えば、できなくなったことを諦めて、次へ行こうとしてはダメ。



できるようになるための努力を怠らない、簡単にいえば、まずは「スペシャリスト」になれる、ということ。ディフェンスでもいいし、リバウンドでもいいからスペシャリストをめざす。そういう部分を見せない限り、HCは選手に目を留めないからです。

山下 デニスHCはチームでの役割や、個人の目標を区別していますから、それを前提にトレーニングメニューを作っていきます。「これができたなら、次はこれ」という形ではありません。大まかに、選手が自分の役割を果たしているかどうかを重視します。チームのルールに則って、必要なルーティンを選手がやっているかどうか。そのためのプロセスや人間性を考慮しながら、「なぜ彼はやっていないの」「好きなことだけなんじゃない」と、指摘を受けることもあります。人は慣れてくるとメリハリがなくなってしまう。そこは調整が必要で、シーズンを通して、選手に伝え続けます。

——コーチによって独自のスタイルがあり、正解はない。選手に寄り添いながら、目標に向かっていくんですね。

大村 「スキル」というのは何万通りあると思うので、選手によって当てはまるもの、当てはまらないものがあり、あとは相性もあるでしょう。でも、僕たちコーチは、相性の良し悪しは言い訳に過ぎません。選手によって伝える内容は違ってもアジャストしていく。スキルコーチの必須条件と言えるでしょう。

山下 個人でコーチングを頼まれれば、自分のやりたいこと、自分が見たい選手を選べることももあるでしょう。チームスタッフだとそうはいきませんが、多くのスタッフと関わり合うことでさまざまな学びがあり、それがモチベーションにつながります。

大村 今の立場でいえば、Bリーグで長くプレーできるよう、選手の成長をサポートする。ロスターに並んだ選手たち、コーチングスタッフと一緒にチームの勝利に貢献する。それができれば、スキルコーチの僕は失格かもしれません。

※次号、「後篇」に続く



# 広い大地に現れた新星

## 創部2年目の日本航空高等学校 北海道

### REPORT

# チーム探訪

## vol.5

2023年は  
創部1年目で  
夏の全国ベスト16

北海道を舞台に行われ

た昨年のインターハイで  
注目を集めた日本航空高  
等学校北海道。開催地の  
チームというだけでなく、

1年生、そして全国大会は初出場なのだから当然であらう。その大会では1、2回戦で全国常連校を撃破し、ベスト16という快進撃を見せた。

指揮を執るのは矢倉直親コーチ。名古屋の市立高校で37年間教員を務め、その間ずっと赴任先でバスケット部の指導にあたってきた。その矢倉コーチが日本航空北海道の女子バスケット部創部に伴い北の大地へやって来たのは一昨年のこと。すぐに部員集めに奔走したが、「なかなか集まらず、部が成立するの不安でした」と、決して順風満帆ではなかった。それでも最終的には15人が入学。1年生からキャプテンを務め

る西川葵(現在2年生)は、「二期生になるので、ほかのチームにはない自分たちのチームを創ることができることに魅力を感じました」と、進学を決めた理由を語る。

学校は新千歳空港から車で15分ほどで、大学やバスケット

部が活動する体育館に食堂、寮もその広大な敷地内にある。体育館は大学のサークル活動が始まる18時まではコート2面を女子バスケット部が優先して使用でき、トレーニング器具もそろそろ。今年はドイツ遠征を行うなど、学校の全面的なバックアップもあつてバスケットに集中できる環境だ。だからこそ、矢倉コーチは「感謝の気持ちを忘れてはいけない」と、力を込める。

### 今夏の敗戦がターニングポイントに

チームは初のインターハイで16強入りとなったが、その年のウインターカップでは1回戦で惜敗。さらに今年のインターハイでも初戦となる2回戦で競り負けてしまった。冬に

続き夏も全国では初戦で姿を消すことになったのだ。

「昨年のウインターカップもそうですが、自分たちの力を出す前に負けてしまった。初戦の難しさを感じました」と、矢倉コーチはふり返る。さらに、「自分たちの内側、メンタル面の問題で、どうしても受けに回ると力が出せなくなってしまう」という現状も語った。「二度悪くなるとなかなか回復しない」(矢

倉コーチ)という課題は、越えなければならぬ壁ともいえるだろう。だが、「確実に上手

くなっているし、フィジカルも強くなっている」という成長段階の1、2年生たちは、経験こそまだ少ないが「壁を一つ越えたら上に行くと思います」と、指揮官が期待するように伸びしろは大きい。

「足りないところが見えました。(インターハイ以降は)コンセプトも練習の内容も変えていまして」とは西川。今夏の敗戦は大きな転機となり、中でもコミュニケーションに関しては、練習から選手同士が積極的に話し合う姿も多くなった。皇后杯の北海道予選や1次ラウンド、秋のU18

日清食品北海道ブロックリーグなど、試合を通じて進化の手応えもつかんでいる。

「相手の3年生の意地を感じた」と選手たちが口にしたインターハイ。だが、「私たちも勝ちたいという気持ち

ちは負けていないです」と、西川は力強いコメント。そして、11月のウインターカップ北海道予選で優勝。「自分たちの力を出しきれば」と、矢倉コーチは先を見据える。現状打破を図る日本航空北海道の挑戦は、2度目となる冬の全国へと舞台を移す。

## Key Player

Aoi Nishikawa

西川 葵(キャプテン)

「ケガからの復帰戦がインターハイだったので、個人としては試合に出られたことは良かったです、プレーだけでなくキャプテンとしてチームを勢いづけるような声掛けができたのではないかと思います。今、力を入れているのがディフェンスとコミュニケーション。それができれば、自分たちの強みを生かしたオフェンスがスムーズにできると思います。最高成績が全国ベスト16なので、それ以上を目指していきたいです」



Arisa Ihara

庵原 有紗  
(U17女子日本代表)

「インターハイのままで全国でも勝てないと思うので、絶対に変わらないといけない。個人としては(相手に)プレッシャーを与えられても、それに負けずに1対1を継続すること。チームの強みは高さですが、インターハイでは『ハイ&ロー』のプレーが弱気になってしまいでなかった、次の全国大会では『ハイ&ロー』をしながら、自分も1対1やディフェンスを頑張って、リバウンドも取っていききたいです」



日本航空高等学校北海道  
矢倉 直親 監督  
NAOCHIKA YAKURA

1963年、神奈川県出身。筑波大学卒業後37年間、名古屋市立の学校に教員として奉職。愛知県高等学校体育連盟バスケットボール専門部の委員長も歴任した。





# 学園創立 123年目の「冬の陣」

## 伝統への歩みを加速させる広島県瀬戸内高等学校

REPORT

### チーム探訪

vol. 6

「あまり出場機会に恵まれず、6年目を終える段階で引退勧告というか……とにかくプレーを続けたい、バスケットに関わり

**赴任9年目、生徒と一緒に開いた扉**

学園創立123周年を迎える広島県瀬戸内高等学校は、サッカーやバレー、野球など多くのクラブが全国レベルで知られており、男子バスケットもそのひとつ。今年が県大会で5年ぶりの2回目の優勝を飾り、通算3度目のウィンターカップに出場を決めた。指導する川西英昭教諭は大学卒業後、当時国内最高峰の日本リーグ、三菱電機ドルフィンズ（現・名古屋ダイヤモンドフィニクス）でプレーし、引退後に教員免許を取得して教職に就いたという経歴の持ち主。



指導者としての自己評価は、「人間的な部分を育てることに対して、自分なりの芯はあるんですが、バスケットに関してはそれが無い。三菱電機時代

**芯を持つ強み、それが人間力の源になる**

これまたそのタイミングで、同校の体育館の立て直しが終わったばかり。バレーに続いてバスケットも強化しようという狙いがあった。

校で12年間過ごした。男女のバスケット部に、礎を築いたものの学校業務への専念を打診されると悩んだ末に転職を決意した。当時から変わらない信念が、「自分の芯」をブラさないこと。バスケットもそう、人間としてもそう。それは、きちんとありました。そういう部分をアピール材料に、自分からこ（瀬戸内高校）に来たんです」



ウィンターカップ広島県代表決定戦、一時ダブルスコアの劣勢から盛り返し逆転勝利を収めた広島県瀬戸内高等学校。他の運動部同様に、男子バスケット部は三度目の全国切符を手にした。

たいと思っていたところ、母校の県立松江東高から外部コーチのお誘いを受けました。それを好機とらえて教員免許の取得を思い立ち、通信制の課程で2年間学び、「メチャメチャ大変でした（笑）」とふり返りつつ、28歳で見事合格。

今度はそのタイミングで、「バスケットの指導ができる先生を探しているよ」という情報に触れ、そのまま赴くことに。初任

地は高知県、高知中央高等学



のつてを頼っている方に来てもらいました。指導法を見たり、いろいろ教わったりしたことが、今も財産になっています。人とのつながりを保つということが、とても重要だと思っています」

また、生徒や選手に対しては、「大人にしたい」というコンセプトがあり、それをベースに「バスケットでも飛躍させたい」というのがモットー。大人にしたいというのは、必要な時に必要な選択ができ、正しい判断ができるようにするということ。例えば、「大人としての立ち振る舞いはどうすべきか？」——「バカになっていい時はバカになる、真剣さが求められれば姿勢を正してきちんと向き合う、というのその一端だと考えているという。」

この数年は「いつかは勝てるだろう」という感覚になっていきます。試合中の指示にしても「なんか浮かんでくる」感じが強いのだそう。

勝手に解釈するとそれは、これまでの多くの関りの中で、指導法についてたくさんの引き出しが準備でき、そこに入れるべき情報もどんどん増えていった。そ

自分がきちんとその感覚を持ちながら指導しなければならぬ。今、選手たちに何を教えるべきなのか。「その判断を正しくする、常にふり返りながら勉強し続けることが重要だ」と思っています」と、学びの継続を強調する。

今年のチームは「正しい選択ができるチーム。練習前にその日のコンセプトをしっかり決めて行きます。1回の練習でそれらをこなしながら、最後にスクリーンをやらせると、選手たちはたくさん選択があることがわかってきます。どれも正しい選択だという前提で指導しますが、どれか一つを自分たちで判断できるように、練習で繰り返し落とし込んでいきます」

広島県瀬戸内高等学校  
**川西 英昭 監督**  
HIDEAKI KAWANISHI

1973年、島根県出身。京都産業大学卒業後、三菱電機ドルフィンズへ。現役引退後に教員免許を取得し、高知中央高等学校の教員になる。指導者の道へ。





韓国で一番思い入れがあるKB STARSの本拠地チョンジュアリーナ。選手の姿が掲示されているのが韓国の特徴

海を渡ってすぐ、日本から一番近い外国の韓国へ、2年ぶりにバスケットボールを観に行きました。ツアーというグループで行くようなイメージがありますが、私ひとりで行きました。というわけで、例によって観光はゼロ。今回は、10月31日～11月4日の日程でした。日本では高校生のウインターカップ予選真った中だったので、どうしても悩みましたが、滞在中に私が観たいチームを立て続けに観ることができる日程がコソシかなかったので行くことにしました。

# Nissy's TRAVELING Talk VOL.5



## 2年ぶりのバスケットボールツアー

文 西崎 浩彰  
hiroaki nishizaki

神戸生まれ。学生時代10年間バスケットボールで汗を流し、現在は観戦専門。ここ数年は、NBA、NCAAなど合わせて年間10試合以上を現地観戦。趣味はカレッジキャンパス巡り。

韓国にも日本と同じように、男女のプロリーグがあります。男子はKBL (Korean Basketball League)、女子はWKBL (Women's Korean Basketball League) といい、それぞれ10チームと6チームで構成されています。

KBLは1996年にリーグが創設され、翌年に初のリーグ戦が行われて現在に至ります。当時に比べると、チームの多くは変わっているようですが、初代チャンピオンはソウル特別市を本拠地とする『ソウルサムスンサンダース』。このチームは現在もあり、今回ホームアリーナで観戦をしました。

WKBLは1995年に創設され、翌年からリーグ戦が開催されています。今年の夏、WKBLが「アジアクウォーター制」を導入したことにより、今季は8名の日本人選手が各チームに所属、2名の在日韓国人選手がドラフトされました。個人的には日本のメディアの皆さんが取り上げてくれるおかげで、日本のバスケットボール界でWKBLが少しずつ認知されているように感じ大変嬉しく思います。

### WKBLの新しい試みで日本人選手たちも活躍



KB STARS × 新韓銀行のトスアップ

渡韓初日は、インチョン空港に着くや否やチョンジュヘ向かいました。ここはWKBLの『KB STARS』の本拠地、私にとってもとても思い入れのある地です。それはなぜかというと、2016-17シーズンから3年間、私が勤めている株オンザコートがウェアのサポートをしたチームだからです。この年ヘッドコーチに就任し、兼ねてから親交があった安德洙(アン・ドクス)さんからオファーがあり、それを引き受けたという経緯です。現在彼は、コーチではなくWKBLの事務総長という立場で、とても偉い方になってしまいました。

このチームには2名の日本人選手、永田萌選手(前デンソー)と志田萌選手(前シャンソン化粧品)が所属しています。志田選手はこの日、ベンチを温めることになってしまいましたが、復帰を期待するとともに、早くプレーしている姿を見たいものです。一方の永田選手は、堂々のスタメンで大活躍し、勝利に大貢献！すでにチームの中心選手でした。海外で頑張る選手を応援する、これが私の今回の渡韓の最大の目的でした。

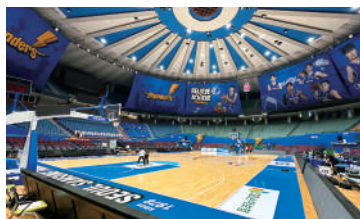
私が今まで現地で観たKBの勝率は100%、試合後ヘッドコーチの金完洙(キム・ワンズ)さんから、「毎試合観に来てくれ」とお願いされてしまいました。そして2年ぶりでしたが、多くの方に声をかけていただき、良い時間を過ごすことができました。

翌日は、KTX(日本でいう新幹線)でプサンの隣にある『昌原LGセイカーズ』の本拠地チャンウォンへKBLのゲームを観に行きました。ここに行きたかった理由、それは以前から、団長で日本語を話せるハンさんから「いつでも試合を観に来ていいよ」と言われていたから。ただ、近いと言っても海外で、ソウルから離れた地域ということもあり、なかなか行くチャンスはありませんでした。ですが今回、上手くスケジュールが合い、「このチャンスを逃せば次はいつになるか分からない」と思ったからです。

ハンさん自身は昨季で団長を辞めており、現在ソウル在住とのこと。それは、「試合を観に行きたい」と伝えた時に知りました。ハンさんは「俺、いないけどチームのスタッフに言っといたから、ここに電話して」と電話番号を教えてくださいましたが、私が韓国語を話せないことを知っているの「大丈夫！ そいつ英語できるから」と……英語も話せない私は、久しぶりに震えましたが、もう行くしかありません。アリーナに着いて、無事に現在の団長さんに挨拶をするとVIP席に案内されました。お土産をいただき、数々のおもてなしを受けてさらに震えたのは言うまでもありません。人のつながりにつくづく感謝！

LGには、昨季途中まで琉球ゴールデンキングスに所属していたカール・タマヨ選手がいました。残念ながら負けてしまいましたが、タマヨ選手の活躍を観ることができ、来た甲斐がありました。

3日目は、チャンウォンからソウルへKTXで移動。そして地下鉄を乗り継いでチャムシルへKBL初代チャンピオンのサムスンのホームゲームを観に行きました。サムスは開幕から5連敗。連敗を止めたいファンはシュートが決まるたびに優勝したかのように割れんばかりの大歓声、その後押しもあり見事に逆転勝利を収めました。この日はメディアの席で観戦。連敗が止まったので、それに気を良くした担当の方にメディア用のクレデンシャル(取材パス)は記念にあげるから、いつでも来てくれと言われたので、チャンスがあれば今季中にもう一度くらい観に行きたいと思います。



ソウル サムスン サンダースのホームアリーナ。ソウル五輪(1988年)の会場で、老朽化委による建て直しが決まっており、今季が最後とのこと

### 「縁」がつぐむ日韓のバスケット交流の発展に期待

4日目は、ちょっとしたサプライズがありました。それは昨季、神戸ストークスでアシスタントコーチを務め、シーズン終了と同時に韓国に帰っていた李相範(イ・サンボム)さんから昼食のお誘いを受けることに。今回は会えないと思っていたので、お土産を直接お渡しすることができてとても嬉しかったです。そしてサプライズの後、石田悠月選手(前山梨

クイーンビーズ)が所属するWKBLのハナ銀行のホームゲームを観にプジョンへ。今回のツアー最大の目的は、日本人選手の応援でしたが、ここにはもう一人会いたい人がいました。その人は選手ではなくコーチ。昨季までB2神戸のヘッドコーチを務めていた森山知広コーチです。日本人選手がWKBLでプレーするのが初めてなら、日本人コーチがベンチに座るのも当然初めてのこと。その裏には、神戸で共に過ごした李さんの助言があったそうです。ただ、日本国外のチームでコーチに就任するのは簡単なことではないでしょう。不安はあったはずですが、それ以上に「挑戦したい」「もっと学びたい」「成長したい」という貪欲さがあったんだと、話を聞いて感じました。



ハナ銀行 × 新韓銀行のトスアップ



ハナ銀行の森山コーチと試合前にコート中央で記念撮影

5日目、帰国の日は森山コーチが所属するハナ銀行の練習施設を見学しました。出来たばかりのその施設は、選手なら誰もがモチベーションが上がりそうな、もうほれほれするものでした。「日本でも早くこういう施設を作るチームがあればなあ」と思いながら、4泊5日の韓国バスケットボール「ひとり」ツアーを締めくくりました。



ハナ銀行練習施設

最後に、いつも助けてくれる韓国のバスケットボールマガジン『ROOKIE』の編集長・パク記者をはじめ、いつも温かく迎えてくれるKB STARSの副団長のチャンさん、マネージャーのキムさん、すっかり偉くなったアン事務総長、昨季ストークスで知り合ったイさん、今回新しく知り合いになった皆さんとの繋がりに感謝いたします。そして、この記事を書いている最中に、新韓銀行のクーコーチが体調不良



でチームを離れたとの連絡がありました。一日も早く回復され、現場に戻ってくださることをお祈りいたします。

帰国翌日に休養の知らせが届いた新韓銀行のクーコーチ。観戦した2試合がアウェーだったのは、偶然ではない気がします



バスケットボールにまつわるあれこれを幅広くお届けします。

01



**今**年で2回目の「新人インカレ」を主催したのは全日本大学バスケットボール連盟（日学）。そして、主管は北海道大学バスケットボール連盟、いわゆる北海道学連です。主管とは、大会の運営や管理を行うことであり、その責任は重大です。

2023年の冬に話が始まり、実作業に入ったのは24年の春頃から。札幌近郊の大学に通う約10人が中心的な役割を担い、大会期間中は約40名が運営に携わりました。主管に当たって北海道学連の奮闘ぶりを、同学連の工藤大誠学生委員長に聞きました。

工藤大誠学生委員長

「全国の方から見られているという自覚を持ち、選手や観客のみなさんが不便に感じないような運営を心掛けました。選手が最高の環境でプレーできるように何をなすべきかを考えました」という。

日学や先輩からアドバイスを受けながらも、大会が近づくにつれてミーティングや仕事量は増加……そんな時こそ大事にしたのが「笑顔で楽しく」運営すること。平日に試合があったり、入場料が設定されたり、道内の大会では経験したことがない業務に難しさや緊張感があったと振り返りました。

「実際に大会が進んでいく中、それぞれが責任を持って、楽しく運営をできたのはとても良かったと思います。最終日、決勝戦が終わり感動に満ち溢れた会場を見た時、今までにない達成感を味わいました！」という笑顔が印象的でした。

今回の経験を踏まえ、「準備や運営を通して、多くの方々と協力する場面がありました。その上で大切なことや、わからないことはみんなと共有し、相談し合うことの大切さを学びました。みんながひとつの『チーム』となり、お互いの長所を生かして運営ができたと思います」とのこと。

北海道教育大学札幌校に在籍する工藤学生委員長は教職をめざします。「学校現場でも新人インカレで学んだ、『チーム』となって仕事することの大切さが役に立つと考えています」と将来を見据えています。新人インカレに関わった北海道学連のスタッフ全員が同じように感じているに違いありません。バスケットを通して培った責任感や連帯感、そして達成感をいつまでも大切に持ち続け、それぞれ次のステージへ進んでいくでしょう。

02



text by Kimi Yata



**い**つもOTCくきやの応援ありがとうございます！  
2024年10月から『女子西日本SB2リーグ』が開催され、OTCくきやの現在の結果は2勝1敗となっております。11月9日、10日の試合をふり返ってご報告いたします。

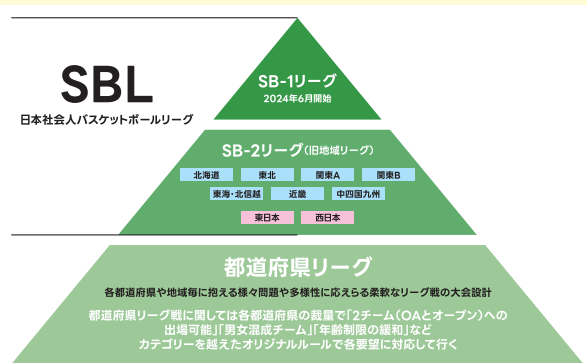
9日、笠戸ブレイブスターとの試合は1Qで14対24と10点のリードを許す展開となり、非常に厳しい状況でした。3Qが終わった時点で8点差、なかなか点差が縮めることができずに4Qを迎えました。しかし、誰一人最後まで諦めずに攻め続けた結果、残り2分50秒で逆転することができ、そのまま勢いは止まらず72対66で勝利しました。

翌10日は今治オレンジブロッサムとの試合でしたが、55対76で敗北し悔しい結果となりました。

次の試合は12月22日（日）に、はびきのコロセアムでアストライアと対戦します。目標としている「SB1昇格」に向けて皆さんに良い結果を報告できるように頑張ります。これからも応援よろしくをお願いします！

#### 女子西日本SB2リーグとは

『OTCくきや』が所属する女子西日本SB2リーグ（旧地域リーグ）は、「一般社団法人日本社会人バスケットボール連盟」が主催する日本社会人バスケットボールリーグ（SBL）の中のひとつです。現在、『今治オレンジブロッサム』『アストライア』『笠戸ブレイブスター』『播磨ホワイトバックス』、そして『OTCくきや』の5クラブが所属しています。SBLは図のような三階層で構成され、その頂点はBリーグ・Wリーグになります。日本社会人バスケットボール連盟は、社会人カテゴリーの競技環境整備のため「実業団連盟」「クラブ連盟」「教員連盟」「家庭婦人連盟」の4連盟を統合して生まれました。

公式サイト<https://sbl.jsb-basketball.or.jp>

出典：一般社団法人日本社会人バスケットボール連盟公式HP



## 2009年9月、福岡店オープン

ボーラーズ福岡店のオープンは2009年9月のこと。福岡市天神4丁目、西鉄福岡(天神)駅や地下鉄天神駅の他、バスなど公共交通機関を利用してそれぞれ徒歩10分圏内という好立地で、近くにコインパーキングも多数ありました。その後、2012年3月に天神4丁目から天神5丁目に移転しましたが、2024年8月までの約15年間天神で営業を続け、多くのお客様にご来店いただきました。

旧店舗の広さ約60坪で1フロアのみ。自社商品を中心に取り扱い、コンバースやチャンピオン、NIKEに加え、インポートのNBA、NCAA関連商品もラインナップし、店内は商品でぎっしりと埋め尽くされていました(『ドン・キホーテ』みたいと言われることも……)。

ミニバスを頑張るお子様がいらっしゃるご家族連れや中高生、一般の方まで本当に多くの皆様にご愛顧いただきました。

## 2024年9月、リニューアルオープン

新店舗は福岡の中心地にあった旧店舗とは真逆のロードサイド店です。最寄り駅の西鉄春日原駅やJR春日駅から徒歩約20分、駅前からコミュニティバス(100円)が1時間に1本ほど出ていますが、ほとんどのお客様はお車でご来店いただいています(駐車スペースは最大5台)。

アクセスは旧店舗にかないませんが、広さは段違い! 1F約100坪、2F約50坪(バックヤード含む)に加え、約20坪の「憩いスペース」もあります。さらに、新店舗の目玉のひとつが「店内バスケットコート」。旧店舗では、おもちゃのミニリングでシュートゲームやボールビンゴ等、体験型イベントを定期的開催し、毎回たくさんのお客様に楽しんでいただきました。これは実店舗だけが持つ特権だ! と思い、移転を機にもっと遊べる場所が欲しいと考えたのです。

そして実現したのが、バスケットコート。店内のど真ん中にあり、アリーナの中で商品を選んでイメージのフロアになっています。コートを利用するだけじゃない、買い物だけでもない、この空間そのものを楽しんでいたきたいのです。

もうひとつのウリが「入口のバスケットゴール」。ご来店の記念に写真を撮っていただける場所を作りたいと考え、お店の入口にバスケットゴールを設置しました。誰もが一度は「ダンクシュートしてみたい!」って思ったことがあるでしょう。ここでそれが叶えられたらと思い、旧店舗で使っていたバスケットゴールを解体し、その一部分を設置しました。

コートで本気1on1を楽しむ様子



憩いのスペース

当初、施工業者の担当者に「また無茶なことを……」と、渋い顔をされたのですが何とかお願いし、試行錯誤の末に無事に設置が完了、オープンに間に合わせていただきました。2024年4月に物件が決まってから、店舗の内装・外装に加えてコートフェンスの設置やバスケットゴールの設置など、次々に無理なお願いをしてもすべて聞き入れ、実現してくださった施工業者の方々には本当に感謝しかありません。ご来店の皆様、ぜひ写真を撮って帰ってくださいね。

さて、バスケットコートですが利用料は1人100円(10分間)。ミニバスの子もたちがメインですが、シューティングなど自由に楽しんだり、汗だくで本気の1on1勝負をしたりする子どもたちもいます。

新店舗のリニューアルが決まってから、スタッフみんなで「どんなお店にしていきたいか」を考えた時、一番に実現させたかったのは、「テーマパークに行った時のような感覚になる場所づくり」でした。買いたいものがあるってご来店いただけるのはもちろんですが、それ以上に「ボーラーズに行こう!」というのが目的としていただけるような空間を提供できればいいなと考えました。大げさか

もしれませんが、遊園地やアスレチックに遊びに行くような、日常を少し忘れて特別な日になる、ワクワクを味わえる、そういう場所にしたいという思いがありました。

上から見た店内の様子



たくさんの方々に力を注いでいただき、出来上がったのがこの店舗です。ボーラーズ福岡店は2009年のオープンから今年で16年目となります。これまで営業を続け、大きく成長できたのはご来店いただいたお客様、さまざまな形で関わってくださった皆様のお陰です。本当にありがとうございました。これからもまた、この場所でたくさんの方々に素敵な時間を過ごしていただけたら嬉しく思います。ご来店お待ちしております!

(福岡店店長・隈部妙美)

# ボーラーズ福岡店 リニューアルオープン!



福岡県大野城市御笠川2-11-2 ☎092-558-7191  
《営業時間》平日 12:00-20:00/土日祝 10:00-19:00  
《定休日》毎週火・水曜日



福岡店スタッフ  
左から 杉本 舞、田村 建一郎、重富 英世、隈部 妙美、藤本 恭平、豊田 有紗



### スタッフより

「バスケットボールとおしゃべり大好きなスタッフが、明るく元気に皆様をお迎えします。商品のことだけでなく、いろいろなお話ができたら嬉しく思います。私は身長も声も大きいので、店内ですぐに見つけられると思います。NBAは絶対勉強中のため、教えていただくと助かります。ちなみに「Bリーグカード」が好きな方はいらっしゃいますか? そんな話題も大々大歓迎です! お買い物の手助けができますよう、スタッフ一同全力で対応させていただきます。バスケットボール専門店としては九州最大級の店舗です。たくさんの方々の思いの詰まった店内に広がる空間を、隅から隅まで見ていただきたいです。皆様のご来店を心よりお待ちしております!!」(豊田有紗)

アンケートに答えて  
豪華プレゼントを  
もらおう!!

読者  
プレゼント

下記のいずれかを各1名様にプレゼントします。当選された場合、誌面掲載にご協力いただく場合があります。予めご了承ください。



2 WKBL ハナ銀行  
石田 悠月 選手  
(前 山梨クイーンビーズ)  
サイン入りユニフォーム

3 同 サイン入り  
バスケットボール  
7号球 素材:ゴム



4 神戸ストークス HOME GAME  
観戦ペアチケット  
(観戦申込券)

●当選された方ご自身の観戦日・お席の選択が必要です。  
●2024-25シーズンスケジュールについては神戸ストークス公式HPをご確認ください。

各1名様

神戸市垂水区の小学1年生、さくと君(7)が「ボールジョージ KIDS レプリカジャージ」に当選し、ボーラーズ神戸店にて賞品を受け取ってくれました。知っているNBA選手は「八村選手と河村選手!」と元気な答え。地元ミニバスチームに入ろうか迷っているようですが、是非このジャージを着て、とことんバスケットを楽しんでほしいですね!



締切 2024年12月31日(火) 12時00分

スマートフォン、PC、タブレットから応募

<https://x.gd/YhERd>

にアクセスしてアンケートにお答えください。

※回答はお1人1回までとさせていただきます。  
※当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。  
※本アンケートは予告なく変更・中止させていただく場合がございます。  
※一部の端末・機種でご利用いただけない場合があります。予めご了承ください。